

**花巻市東和地域協議会  
平成24年度第4回会議記録**

日 時	平成25年2月28日(木) 14:00~16:00							
場 所	東和総合福祉センター 大ホール							
委 員	役 職	氏 名	出席	欠席	役 職	氏 名	出席	欠席
	会 長	小原 宏	○		委 員	下坂 淳代		○
	副会長	吉田 英雄	○		委 員	猿舘 祐子	○	
	委 員	菊池 隆耕	○		委 員	小田島 忍	○	
	委 員	下林 育男	○		委 員	日下明久美	○	
	委 員	平野 保	○		委 員	晴山 准子	○	
	委 員	赤坂 學	○		委 員	川村 哲夫	○	
	委 員	小川 洋征	○		委 員	藤井 公博		○
出席者	<p>東和地域各コミュニティ会議  あすの小山田を考える会 会長 浅沼幸雄、事務員 小原一成  土沢地域づくり会議 代表 小川洋征(協議会委員)、副代表 朝倉祐人  成島地区コミュニティ会議 会長 小原君雄、事務局長 菊池和彦  浮田地区コミュニティ会議 会長 平野保(協議会委員)、副会長 菊池隆耕(協議会委員)  東和東部地区コミュニティ会議 会長 小原宏(協議会委員)、生活環境部長 下林育男(協議会委員)  田瀬地域コミュニティ会議 総務企画部長 伊藤功、事務局長 佐藤松雄</p>							
出席職員	<p>東和総合支所  支所長 赤坂謙  地域振興課 課長 多田潤、課長補佐 藤根幸生、地域づくり係 係長 佐藤健、主査 伊藤精一  市民サービス課 課長 藤井正昭</p>							
傍聴者	0名 (うち報道機関0名)							

司会：藤根課長補佐

## 1 開 会 (司会)

※ 出席者過半数により会議が成立することを報告

## 2 主催者挨拶 (小原宏会長)

お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。東和地域協議会が主催ということで、今日皆様にお集まりいただきましたが、東和地域協議会だけでなく、コミュニティ会議の役員の方々に一緒に参加をいただきまして、東和地域にはどのような課題があって、どのようなことをどうしなければいけないか、ということについて、懇談をしてみたいというふうにご考えておるところでございます。この会は、結論が出る会議ではございませんが、どのようなことが問題としてあるかについて、皆様といろいろと懇談をしてみたいと思っております。その中から、これは共通して東和地域の課題としてあるのであれば、地域協議会ではそれらを

取り上げまして花巻市長の方に意見を述べるということもできますので、その辺も含めながら皆様と懇談をしてみたいと思っております。それから、皆様の方に何か提案等ございませんでしょうかということをお願いをしておりましたところ、たくさんの方からいろいろとご提案をいただいておりますが、例えば自主防災組織のその運用自体について話し合いをしたらどうかとか、通学路がまだ指定になっていないようでございますが、その通学路の指定等について話し合いをしたらどうかということもきておりますが、これらにつきましては、時間の関係がありますので、これらを次の地域協議会の議題としていきたいなと考えているところでございます。本日ににつきましては、標題にもありますように、高齢者や障がい者をひとりにしない地域づくりについて、それから賢治の会ということがありますが、花巻市では賢治まちづくり課という課があります。これらにつきましては、説明をいただきながら話し合いをしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

### 3 支所長挨拶（赤坂謙支所長）

東和地域協議会の今年第4回目の会議でございますけど、今回はまちづくり懇談会ということで、コミュニティ会議の代表者の方々との意見交換ということで、さらに地域課題の理解を深めていくと、そして課題に向けて取り組んでいくという趣旨の会議でございます。年度末のご多忙中のところ、ご参加くださいますとありがとうございます。

## 4 意見交換

### (1) 高齢者や障がい者をひとりにしない地域づくりについて

#### 小原宏会長

それでは、早速意見交換に入りたいと思います。皮切りでございますが、小川委員さんの方から懇談会についてというのが1ページ目にありますので、ご説明しながらお願いいたします。

#### 小川洋征委員

この文章には、高齢化の現状と地域課題と私の提案ということでございまして、箇条書きにして書いてございますので、現状は皆さんお分かりだと思います。地域の課題でございますけど、高齢者や障がい者が結構増えてまいりました。最近、見受けられるのが50代で認知症になってくる方が結構増えてきております。それらを家族で見守りすればいいのだけでも、どうしても、責任が民生委員だけに重くのしかかってくる風潮が強いように思われます。民生委員の重責がものすごくあるということが、住民のみなさんがご存じのために、民生委員にはなりたくないというのが実情でございます。

そこで、私の提案でございますが、高齢者・障がい者が増加している現状から、民生委員一人の活動に限界がありますので、お年寄り世帯や障がい者、それから母子（父子）家庭等々を見守り、声掛けする民生委員に協力する「地域サポート体制づくり」提案したいというふうに思います。これは、みなさんがご存じのとおり、花巻市が提唱する「支え合いづくり」という、去年の秋ごろから各行政区長を通じて地域づくり会議に提案されて、パブリックコメントと申しまして地域の意見を聞いているようでございますけど、高齢化は社会的な問題でございますので、支え合いの基本は将来に亘る地域課題であるというふうに思いますので、花巻市が先頭に立ち組織と身分、仕事の範囲などの諸問題は、市が設置する機関で協

議していただいたらいいのではないかというふうに思います。近所付き合いが希薄した現在、暮らし安心のまちづくりを守っていくためには、コミュニティ会議はそれぞれの予算と活動する限度が決まっております。そういうことで、後期高齢者だけ住む地域をどうするか、花巻市は民生委員だけに依存せず、弱者を見守り支え合う体制づくりが必要と思われまゝ。そこで、ここにご提案申し上げました。以上でございます。

#### 小原宏会長

この中で3つに分けて書いていただいておりますので、今お話がありましたように現状はこうなのだと、それから地域の課題ということになりますと、民生児童委員に任せきりの風潮が強いと思っているということでございます。3番目の提案ですが、「地域サポート体制づくり」を提案しますと、非常に具体的に話が出てきているわけですが、前に民生児童委員さんが減った時期が、3年前かな、6年前かな、二人あったところを一人に減らしたという後遺症が残っているところが、恐らくあるのではないかと思います。二人のところを一人で見るとございまして、民生児童委員さんの職務それから行動範囲というものは、非常に重くなってくるということから、今民生児童委員さんのなり手が無いというのが現状ではないのかなと思います。

そこで、私の方から話題を提供いたしますが、ある時市政懇談会の時に、市長さんに民生児童委員が二人から一人になったから、何か対策を考えているのかと話をしたところ、今小川委員さんが言うように地域のサポート体制づくりすると、直接市長から聞いておりますから、何か考えますというふうなことでしたが、まだ実現には至っていないというところでございます。

みなさまいろいろお考えがあらうと思われまゝですので、ご意見を頂戴してまいりたいと思います。

#### 小原君雄（成島地区コミュニティ会議会長）

民生児童委員のお話が出ておまして、6年前の改選期に私も区長をやっておまして、かかわった一人でございます。あの時は民生委員が減っていきますよという国の方針が出まして、それを先取りするように定数の削減に前向きに取り組んだ、というふうに私は理解しておまして、さすが東和町だなと聞いておりましたけども、現実問題、高齢化社会が進んでいく中で、どうしても民生児童委員さんにかかわるお仕事が増えてきたのだらうなと思います。そういう中で、早く市が先頭に立ってそういう高齢化社会の対応、また民生児童委員さんの負荷が重くかかるわけで、その軽減をしながら、民生児童委員さんには前向きに任期を全うしていただき、再任という形、また新規に信任される方がどんどん増えるような社会であればいいなと考えております。

もう1つ大事なことは、成島地区コミュニティ会議4行政区ありまして、3月末の行政区総会で自主防災組織の立ち上げを提案して、4月から4行政区一緒にスタートしたいという方向で4人の区長さんががんばっております。

自主防災の中で負担のかかる災害時でございますけど、こういう高齢化社会の中で一人暮らし、また高齢者の二人暮らし世帯が増えるという中で、もし災害が出た場合に、どなたかが世帯に行って安否を確認することになりますと、我々の地域の自主防災では、身近な人又は班体制で安否確認をするというような確認もしてございまして、組織もそのような形になってございまして。そういう中でどうしても特にも中内第一・第二、戸数にして150戸あるわけでございますけど、この地域の民生委員は一人なのです。大変民生委員さんにはご苦

労をかけているわけでございますけど、一人で大きな世帯を担当する地域もあろうかと思えます。そういうことで、自主防災の観点から申しますと、もし災害が出た場合に高齢者や弱者の方々の安否を確認するということが、どうしても民生委員さんの大きな仕事という感じがします。また、民生委員さんの話を聞きますと、震度5弱になりますと、地域内の一人暮らしや寝たきりの方々の安否を確認して報告しなさいよ、という仕事もあるようなのですね。それらを踏まえながら、民生委員の定数が東和地域は減っているわけで、民生委員さんが活動しやすいような、地域できちとした体制をして、災害時にも対応できる体制というのが重要な問題かなと思っております。

#### **小原宏会長**

やっぱり、民生児童委員一人だけではなかなか思うように行かないのではないかと、補助してくれる方がいなければならないのではないかと、というご意見のようでございます。

#### **小原一成（あすの小山田を考える会事務員）**

民生委員の報酬ですか、国の基準で8万から10万くらいだと思うのですが、報酬が低すぎるのではないかと。花巻の町場ではいいのでしょうか、この田舎に入りますと車を使わなければならない。また範囲も広いということですね、なかなか民生委員さんの負担も多いのかなと、そういうのもなりたくない要因の1つだなと私は思っております。サポート体制ですが、これにつきましても今の時代はですね、一人の民生委員で何百件というのは大変だと思います。やっぱり、三人なり四人の体制が必要だなと思っております。そして、女性の民生委員さんが多いのですが、一人では不安なので、男性と一緒にやって様子（安否等）を確認することが必要かなと、私なりに思っております。

#### **小川洋征委員**

報酬が低いことについては、万国共通の懸案事項でございますので、市議会議員に話しかけて議員提案という形でやってもらったらいかがというふうに思うのですよ。

#### **伊藤功（田瀬地域コミュニティ会議企画総務部長）**

戸数はあまり多くはないのですが、二人で田瀬全部を見るということは大変だなと。区長の2倍も3倍も忙しいと感じます。地域性も見た人員配置をしていただければというふうに感じます。それから地域の見守り隊についてですが、一人に近所の方を二人、あるいはその中にできれば親戚の方と、それから離れていてもすぐ連絡できる方と三人体制であります。そして情報交換をしてそれをみんなで共有してやりましょうということなんです。

#### **小原宏会長**

花巻市でも、そういうふうな何かあった時には誰かが見守りをするのだ、という制度を作っているようですが、藤井課長に参考意見を話してもらえればありがたいのですが。

#### **藤井正昭市民サービス課長**

把握していることはありません。全体的に高齢化して見られなくなってきたから、地域だけじゃなくて行政にもという意味も分かります。しかし、阪神淡路大震災において、大きな災害になればなるくらい行政というのは機能しない。警察も消防もであって、助け合って災害から救助したというのは、地域住民の力ということが言われているわけです。ですので大

規模災害の場合と一般の見守りとは、分けて考えたほうがいいのではなからうかと。一緒にしてしまうと、負担がかかってしまうと思います。例えば、平日の日中に誰が残っているか、残っている方しか、一人暮らしとか弱者とかを見られませんが、その人たちをやっていく形でないといかんだらうなと思います。あと1つは、コミュニティを大事にするような見守りといったような形がいいのかなと思っております。その方が負担も少なく済むのじゃないか。

#### 平野保（浮田地区コミュニティ会議会長）

浮田コミュニティ会議では、キャッチフレーズというか目標というか「結の里づくり」というふうにしてありますが、支え合うというのが昔はあったというのがなくなってきている。地域サポート体制というふうなことですけど、これから大事じゃないかなと思っております。浮田がこれまでやってきた取り組みでは、物の支給みたいなことでは、寝たきりの方への支援をやっておりますし、一人暮らしの方へ保健福祉部員が訪問することをやっております。何が効果的かということを考えながら、こういうことをやっているということです。あと、谷内行政区でやっているサロン、浮田地区でも1か所公民館主体でやっておりますが、館迫でやっているボランティア30人いますが、そういうものを誘導していくことも必要かと、いずれ対策が必要だと思っておりました。

#### 小原宏会長

サロンは現状ではどのような活動をされていますか。

#### 平野保（浮田地区コミュニティ会議会長）

市の生涯学習講師派遣を利用して話を聞いたり、体操をしたり、あるいは民謡グループにお願いしたり、あとはお昼を食べてお茶のみして解散ということです。

#### 小原宏会長

コミュニティ会議とのかかわり合いはどうなっていますか。

#### 平野保（浮田地区コミュニティ会議会長）

原則、公民館での主催ということですが、チラシを作成して配布するという作るところまではコミュニティでお手伝いしております。講師料がかかる場合は面倒をみています。

#### 小原宏会長

谷内第一行政区でも「たてまちサロン」というのをやっておるようございまして、これはコミュニティ会議でも相当会議をしております。そこで、東和東部地区コミュニティ会議の下林部長さんがきていますから、その辺あたりご披露いただければと思います。

#### 下林育男（東和東部地区コミュニティ会議生活環境部長）

町井・館迫を合わせて「たてまちサロン」ということで、平成22年からやっておりまして、軌道に乗ってきましてですね、地域の人たちを地域のセンターに集めて月1回やっております。また、晴谷まつりの時にもボランティアの方々が送り迎えしたりしております。非常に地域の人たちのお茶のみ、そして趣味、その近辺の催しのものに出かけて活動するという…それが波及しまして各地域で行っていることで、さきがけということで、非常にうれ

しい限りでございます。老人クラブというのがあるのですが、ある特殊の方々しか集まっていないのですよ、そしてゲートボールとかペタンクとかぐらいなもので、あとの活動はあんまり見かけていないということで、こういうサロンですね、非常にいい形態かと。地域負担がかなりですので、コミュニティでも少し援助させていただくということでございます。

#### 小原宏会長

事例の発表をしていただきました、ありがとうございます。女性の方ご発言をいただきたいのですが。

#### 日下明久美委員

今日の議題を見せていただいて、これから本当に大事な問題だなというふうに思って参加しました。思いつきでいろいろアイデアを出して、やっつけられる範囲を超えているのかなという正直な感想がございます。というのは、ボランティアと言ってもなかなか、今人手がないとか、ボランティアに時間をさける人も高齢化していますので、支える人たちの方が足りないのかなというふうに思います。ボランティアの活動として根付いていくためには、そういうことをした方に、ある程度の報酬がいけばいいんじゃないかなというふうに考えますが、そういうふうな仕組みについては思いつかないのですが、そういうふうに感じました。

#### 藤井正昭市民サービス課長

昔のことを思い出したんですけど、東和町の時代にはですね、私が保健福祉課にいたときだったと思うんですけど、保健福祉課と消防と郵便屋さんが連携をして、弱者の確認をしていた時代がありました。今行政文書を月2回配布するわけで、班長さんが必ずお宅に回るので、なるべく班長さんが話をするような機会を設けたらどうなのかと思った次第です。

#### 伊藤功（田瀬地域コミュニティ会議企画総務部長）

合併前の話ですけど、社協さんで見守りの各地区に補助を出してやっていたんですよ。あれを復活してもらえば大変ありがたいなということです。

#### 小原宏会長

東和町の時に、保健推進員という人がおまして、現地に行って確認して出さなければならぬ資料があったんですよ。それがずっと東和町の時は定着していたわけですが、合併した途端にそれは止めます、ということと言われてもったいないなと、あれが今も続いていればこの話はあまり出てこないのではないのかなというふうに、非常に悔しいなと思ったりしています。

#### 赤坂學委員

民生委員が一人になった重責というものを考えますと、部落の顔ぶれは、大体何の会議でも似たりよったりの方々が集まってくるわけでございますけども、そういう人たちの活用も一考であると思いました。

#### 小原宏会長

ただ今みなさま方から、いろいろなご意見、ご提案とか、それから事例発表をいただきました。これにつきましては、地域協議会で取り上げるものがあれば取り上げて、市の方にお

願いするとか、いろいろなことを進めてまいりたいなと考えております。いろんなご意見とか大変ありがとうございました。参考になることもいっぱいあったかなと思っております。

<休憩>

## (2) 賢治の会の設立について

### 吉田英雄副会長

どうもごくろうさまでございます。会議を開催いたしたいと思っております。2番の賢治の会のことにつきましては私が進行してまいります。資料の2ページ目をお開きいただきたいと思っております。川村さんに事前説明をいただきたいと思っております。

### 川村哲夫委員

市の中に賢治会ができておりますけど、その前には大体30の団体がありまして、一同に集めましてまちづくり会という会を創ったんですよ。それが検討会をしまして、最終的に市の方に提案しようということで、賢治の課という新しい課を創るということになったわけです。その時にですね、市の課長が言うのには、いろいろ地域によって賢治の研究があるけども、東和町には見当たらないという話になったんです。総合支所の前に「冬と銀河ステーション」という立派な歌碑がたっております。すでに東和町もちゃんとやっているということがわかったんです。しかもそのところは、昔の朝の市場がずっと今も続いているんですね、そこでやっているみたいなので、もう賢治の精神がそこに生きている。今までやらなかったのではなくてちゃんとやっていたんですけど、その声がちょっと低かったのかなと私は思っています。それで、宮沢賢治の作品を見ていると、大迫にも石鳥谷にも劣らない作品が東和町にあるんですね。石鳥谷と早池峰の賢治の会というのが参考になるのじゃないかということで、取り上げてみたんです。これに基づいてお話ししたいと思います。

花巻の広報の方に載ってまして、去年の6月1日と15日の2回にわたって載ったものです。早池峰の方を先にやっていきたいと思っておりますけど、早池峰賢治の会というのは、平成17年の6月に設立してあります。昔の花巻の役場を移設しまして、そこに事務所を構えてやっている会です。特徴的なのはですね、賢治は早池峰山が好きでしたので、そこを中心に「風の又三郎」という童話がありますけど、その舞台になったんじゃないかということですね。賢治が歩いたろうというところを歩き回って、それを行事の1つとしておるとというのが1つです。

それから、もう1つの石鳥谷の方はですね、好地というところなんですけど、肥料相談所を設けていろいろな肥料相談をしたという作品が、「3月」という詩があるんですけどそれが1つと、それから、葛丸川のちょうど上流に葛丸ダムができてまして、その湖畔に「葛丸」という、これは賢治の短歌ですけどこの歌碑があります。賢治の作品に基づいて会を創っております。

それで、早池峰の場合は、早池峰山というのと「風の又三郎」が題材となって、賢治が歩いたであろうというところを回っていく、年に2回行っていますけど。それから、石鳥谷の方はですね、葛丸川の上流でダムがあってその湖畔にですね、「葛丸」という短歌の歌碑を創っています。そこで、いろんな催しものをしている。年2回やっていますね。

そういうふうなことで、読みますと大体わかると思っておりますけども、そんなようなことで、東和町の場合、これに匹敵するような作品はあるのかということ、あるんですね。むしろ、こ

ちらの東和町の方が多いのじゃあないのですか。まずあの毘沙門さんです。毘沙門さんの詩があります。それから、丹内山神社の詩もあります。それから総合支所の前に「冬と銀河鉄道」というのがあります。それから注目したいのはですね、丹内山神社もそうですが、五輪峠というのがあります。今も牛が放牧されております。「五輪峠」という随分長い詩があります。そのちょっと奥に入りますと種山が原ですから、賢治は大迫から歩いて五輪牧場に来て、さらに種山が原まで歩いたというのが実際にあるのですね。東和町でも立派な宮沢賢治の足跡というか、作品というものは豊富だなと思っております。

今ここで言ったとおり、早池峰山には早池峰賢治の会というのがあります。トレッキングというツアーを春と秋とやりまして、それを盛大にやっております。それから石鳥谷の方は、10月10日だったと思いますけど、「檜ノ木大学士の野宿」という童話があるのですが、葛丸川の上流が舞台となっております。それから、道の駅に「3月」という詩がありまして、そこにも歌碑を創っております。年2回会合をもってやっています。石鳥谷の場合は、この140名と書いてありますが、実際には140名集まってやっていることはありませんので、ただ子供たちが一緒になってやっていますから、かなりの人数にはなっています。

それで、宮沢賢治によってまちづくりをしていこうじゃないか、ということが大石市長の所望なようですので、そういうことで続けてやっておる次第でございます。東和町でも立派な作品がありますので、それを自信持って言えるような、大迫や石鳥谷に対抗できるようにしてみたいなというささやかな希望を持っております。

#### 小原宏会長

ありがとうございました。市なんか開いているようですが、小田島さんそのかわりあいがありましたら。

#### 小田島忍委員

たぶん、土沢市日のことだと思いますけど、この土沢市日は10年以上前の冷害の年に、1回目を開いてそれからずっとやっております。これは毎月第1、第3日曜日にやってきております。あそこの駐車場のところに「春と修羅」の詩を掲示してあるのですが、その中に土沢の市日の様子を詠っているところがございます。その中にはにぎやかな土沢市日というところがあるので、一節をとって商店街の活性化を含めてやっていこうということで、やっております。

#### 吉田英雄副会長

今、川村さんの方や小田島さんから、いろんな説明をいただきましたが、いわゆる大迫、石鳥谷には賢治の会というのがあります。残念ながら東和町にはそれだけの由緒あるところはいっぱいあったにしてもなかったということで、今回地域協議会の方でも、川村さんが公募委員として申請した方であり、組織を設立してはどうかというところで、折角の機会ですからこれに伴って皆さんのご意見をいただきたいというふうに思います。皆さんの方からこういう形に持っていったらどうかとか、こういう方法ではどうかとかあればですね、ご意見をお願いしたいと思います。

#### 菊池和彦（成島地区コミュニティ会議事務局長）

賢治さんはいろんな分野で有能な方で、私もたくさん本を読んだり尊敬する対象のひとりではありますけど、賢治の会とか組織ということにこだわってお話をしますと、たくさん組

織があるのですが、例えばこの議題の前に、地域サポートの体制づくりという話をされましたけど、はたして賢治の会を創ったときに、そういうふうな地域体制サポートにつながるのかどうかと、確かに良いことはたくさんありますよね、点みたいなのがいっぱい打たさっていて、その点が結ばさって線になったり、あるいは面になったりというふうな活動に結びつくものであればいいのですけども。希望ということになるのですけども、賢治まちづくり課の人たちがただイベントを打つというだけでなく、前の話に関連付ければ、声を出すとか体を動かすことによって、老化の防止になるという話を聞いておりますので、ボランティアの方たちに賢治の作品を紹介して賢治について知ってもらい、そういうふうなからみがあればこの会というのも有効になるという感じで話を伺っておりました。地域をサポートするというふうなものをからめるような活動まで広がってくれば、すごくいいものになっていくのかなと希望です。

#### **浅沼幸雄（あすの小山田を考える会会長）**

こういう宝物というのは、実際にすぐそばで毎日見ているとそうは感じられないものでして、日本の遠くの方に旅行しますとかえって熱烈な賢治ファンに会います。地元というのは知っているかもしれないけど、そのくらいは重要視しないような風潮もあるのかなと反省しているところでもあります。

#### **猿舘祐子委員**

こういう会というのは、賢治さんが大好きだという人たちがまず中心となって、小さいながらも、5、6人でもいいので、私たちは賢治さんのだったら命もというような、そのくらい大好きな人たちが中心となって集まって、スタートするのが長続きすると思います。例えば東和町に無いから、いろんな団体に声をかけて、その人たちが委員会を創って賢治の会を推進しましょう、という1つの手もあるのかもしれませんが、逆にそこに持っていくと、折角賢治さんの持っている良さみたいなものが、一般的なものに流されていって、ストイック性がなくなるというかそういう感じがするので、むしろ東和町にあるこういったストイックさを追い求めて会を創った方が、東和町の賢治の会の特徴が出てくるのかなと感じました。

#### **菊池隆耕委員**

地域づくりと賢治は、なかなか結びつかないのですが、賢治の作品や足跡がある程度は知っているつもりですが本当は知りません。逆に言えばそのためにもそういった会もあればいいのかなと思いますが、今の段階ではまだまだそこまでの思いがないというか、疎いという感じでおりました。熱烈な同好者がそれぞれの思いで会を立ち上げることは、全く異論がないわけですが、それを全体的に広める必要性には頭が回っておりません。大変申し訳ない話ですが、そういったことしか今は思い浮かばない現実であります。

#### **朝倉祐人（土沢地域づくり会議副代表）**

今、菊池隆耕さんが言ったような意見と同じでございます。

#### **佐藤松雄（田瀬地域コミュニティ会議事務局長）**

確かに、宮沢賢治という方はすばらしい人なのですけども、内容ははっきりわかりません。我々地元にいるみんなが、内容的に詳しく知っていないというのが現状だと思います。私も勉強したいなと思っていますけど、なかなか業務も忙しいところもありまして、そこまです

っておりません。賢治の会を創るということは結構なお話かと思っております。設立については賛同したいなと思っております。

#### 赤坂學委員

賢治の会の設立に関して云々とは言いませんけど、賢治のことで情報を得てきましたのでお話ししておきます。安俵という集落の細川商店にいた細川直見さんという方が賢治の教え子なそうで、大学教授とか他の県から賢治のことにしてお聞きしにくるというのが、多々あるということをお聞きしましたし、賢治先生とその生徒たちが写った写真を持っているのが細川直見さんだけだったので、それを拡大して清六さんにお渡ししたというお話を伺ってまいりましたし、阿部孝さんという方は賢治さんとの交友がありまして、盛岡第一高校を卒業してから高知の大学の学長さんをやった方でございますけど、細川エミさんという方は、阿部孝さんとの関係もあるような方でございますし、いろいろ賢治のことにしてもう少し知りたいということであれば、写真等多々ございますし、またそういった関係のものもございますので、一応みなさまにお話ししておきたいと思っております。

#### 吉田英雄副会長

大変いい話をお伺いいたしましたが、賢治さんを好きだという愛好者の方々、その思想的に興味を持っている方々が、いわゆるタイプで言えば、生涯スポーツと競技スポーツとこれを合体させたような組織というものを、今後考えていきたいなと思っております。

#### 小原宏会長

冒頭のあいさつでも申し上げましたが、懇談会の提言等ございましたので、例えば藤井公博委員さんからは、自主防災の組織化についての運用実態等についてという提案がございますので、これにつきましては実態等情報収集を図りながら進めてまいりたいなと思ひますし、それから通学路の指定につきましてでございますが、いろんな制約・規制等もあるようでございますので、教育委員会等から説明を受けながら、要望していくとか前向きな方向で進めてまいりたいと考えておりますので、これらについては次回以降に回したいなと思ひます。意見交換につきましてはこれで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

## 5 閉 会 (司会)